

令和6年度農林水産省補助事業
輸出用茶残留農薬検査事業
実 施 報 告 書

日本茶輸出促進協議会

はじめに

農林水産省より令和2年4月に「茶業及びお茶の文化の振興に関する基本方針」が出され、その中で、国際連合食糧農業機関（FAO）は、世界の緑茶貿易量は2017年（平成29年）から2027年（令和9年）にかけて1.6倍に増加すると予測されており、このような海外需要を取り込んでいくことが重要であるとしている。我が国のお茶の輸出についても、海外での抹茶等の需要拡大により、近年増加傾向で推移しており、令和6年は363.8億円（前年比24.6%増）と、ここ数年、過去最高を更新している。

令和12年の輸出量は、令和元年度の0.5万トンに対し、近年の輸出の状況やFAOの見通しを踏まえ、今後の輸出に関する施策を講ずる事を前提に2.5万トンとしている。

お茶の輸出促進の施策として、3項目が挙げられている。

- （1）海外市場の開拓の推進
- （2）輸出の大幅な拡大に向けた生産・流通体制の構築
- （3）輸出先国・地域が求める輸入条件への対応、

特に（3）の施策では、お茶の輸出に当たり、輸出先国・地域における残留農薬基準に適合した円滑な輸出を実現するため、

- ①輸出先国・地域における残留農薬基準に対応した病虫害の防除方法の開発・実証試験等の実施
- ②お茶を輸出する際の留意事項や輸出先国・地域における残留農薬基準等の情報について生産者、輸出事業者等の関係者間での共有化等を促進する。

また、ポジティブリスト制度下で日本よりも厳しい残留農薬基準となっている輸出先国・地域において、合理的な残留農薬基準が設定されるよう、引き続き、関係者が連携し、インポートトレランス申請等の取組を進める、とある。

農林水産省は補助事業として、日本で多く使用されている農薬の米国・EUにおける「インポートトレランス」を申請し、輸出環境を整える事業を行っている。

その一環として、日本茶輸出促進協議会は、輸出を予定・計画している日本茶の残留農薬の実態を調査し、その結果を茶の生産現場に還元し、各国の「残留農薬基準：MRL（Maximum Residue Level）」に適合した日本茶の輸出を促進することを目的として、輸出用茶残留農薬検査事業を行っている。

令和6年度に実施した輸出用茶残留農薬検査の結果を以下の項目について取りまとめた。

1. 残留農薬分析を行った茶の概要
2. 分析方法及び結果の概要
3. 検出残留値と主要輸出国の残留農薬基準（MRL）との概要
4. 農薬以外の化学物質（汚染物質）の検出
5. 本事業の総括と今後の対応

1. 残留農薬検査を行った茶の概要

(1) 検査茶の募集

検査を行う茶は以下の内容で募集した。その結果、応募のあった茶（以下、出品茶と表記）100点について検査を行った。

募集方法の概要

1. 募集対象 輸出用日本茶（荒茶、仕上げ茶）（輸出予定を含む）
2. 募集期間 令和6年6月1日より令和6年6月15日
3. 検査料 無料
4. 対象地区 全国
5. 応募点数 100点（1事業所1点）

(2) 出品茶の都道府県

令和6年度、および過去6年間の出品茶の都道府県の点数を表-1に示した。

表-1 出品茶の都道府県

出品地	R6	R5	R4	R3	R2	R元	H30
東京	3	2	2		1	3	
神奈川							2
埼玉	8	4	6	1	10	2	1
茨城				3			
関東地区	11	6	8	4	11	5	3
静岡	54	50	50	50	49	55	49
愛知	3	5	4	4	5	3	3
三重	1			1	1	3	3
岐阜	1	1	2	1			
中部地区	59	56	56	56	55	61	55
京都	4	13	12	13	11	12	10
滋賀				1	1		
大阪	1	1	1		1		
奈良	4	4	3	1	5	4	4
岡山	1	1	1	1			2
島根			1				1
近畿・中国地区	10	19	19	17	18	16	17

出品地	R6	R5	R4	R3	R2	R 元	H30
高 知				1			1
愛 媛	1	1	1	1			
福 岡	5	7	4	5	5	5	6
佐 賀	1		3	2		4	2
長 崎	1				1	1	2
熊 本					1	1	1
宮 崎					4		
鹿児島	12	11	10	15	5	7	6
四国・九州地区	20	19	17	23	16	18	18
合 県							7
合 計	100	100	100	100	100	100	100

令和6年度も静岡からの出品が半数を占め、地域別でも中部地区が最も多かった。

これまでの出品の傾向として、主産県の静岡、鹿児島、福岡、埼玉では変動はなかったが、京都は本年度減数した。

(3) 出品茶の茶種

令和6年度、及び過去6年間の茶種別の出品茶数を表-2に示した。

表-2 出品茶の茶種

茶 種	R6	R5	R4	R3	R2	R 元	H30
煎 茶	47	39	45	46	39	28	37
深 蒸 し 煎 茶	10	10	12	14	10	19	10
碾 茶 ・ 抹 茶	29	34	32	22	28	21	22
玉 露 ・ かぶせ茶	1	7	3	8	7	10	8
紅 茶 ・ 発 酵 茶	5	6	2	4	4	3	4
粉 末 緑 茶	2	1	2	1	2	5	3
そ の 他	6	3	4	5	10	14	16
合 計	100	100	100	100	100	100	100

茶種別では煎茶が最も多く、47点を占め、次いで碾茶・抹茶が29点、深蒸し煎茶10点で、この3茶種で86点を占めた。玉露は1点のみであった。

茶種別の出品数は近年各々安定してきており、大きな変動は見られなかった。

(4) 出品茶の茶期

令和6年度、及び過去6年間の茶期別の出品茶数を表-3に示した。

表－3 茶期別出品茶数

茶 期	R6	R5	R4	R3	R2	R 元	H30
一番茶	77	74	81	69	68	73	64
二番茶	15	8	9	17	13	12	23
三番茶		3	1	2	1	3	1
四番茶	3	6	1	5	3	3	
合 組	4	7	8	5	15	9	7
不 明	1	2	0	2			5
合 計	100	100	100	100	100	100	100

一番茶が 77 点で最も多く近年でも安定している。本年度は二番茶が増加し、三番茶の出品はなかった。

(5) 出品茶の輸出先国、地域別

令和 6 年度、及び過去 6 年間の出品茶の輸出先（輸出予定先を含む）別の出品茶数を表－4 と図－1 に示した。

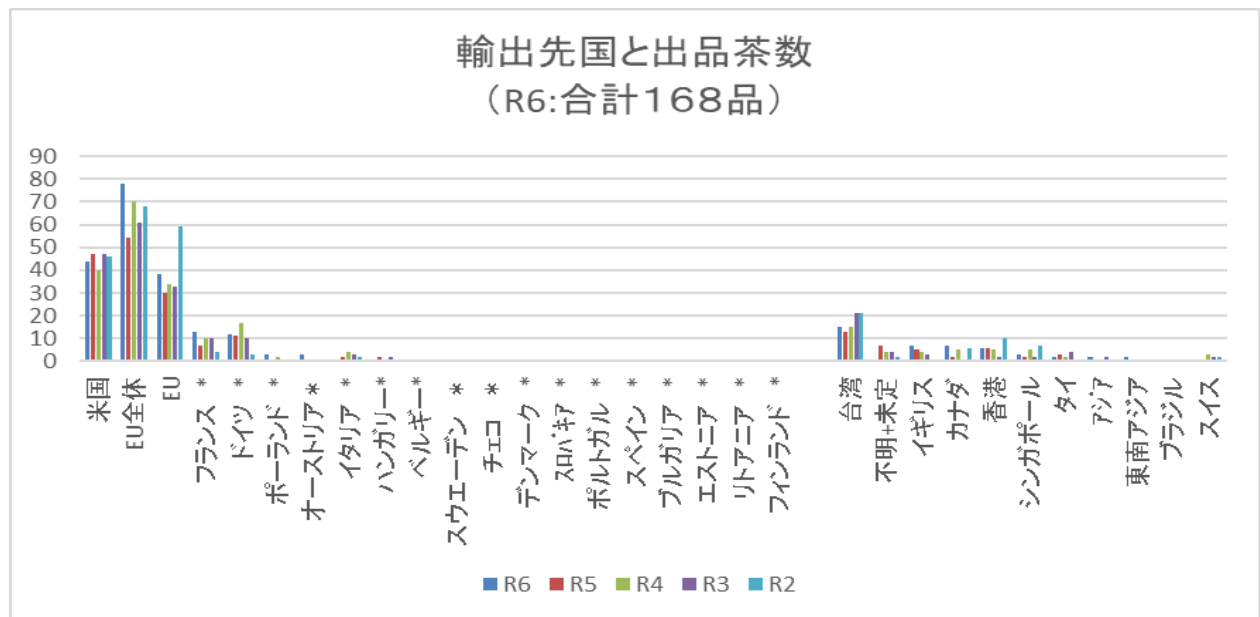
表－4 輸出先国、地域別出品茶数

輸 出 先	R6	R5	R4	R3	R2	R 元	H30
ア メ リ カ	44	47	40	47	46	43	36
E U	38	30	34	33	59	50	46
台 湾	15	13	15	21	21	29	26
フ ラ ン ス *	13	7	10	10	4	6	5
ド イ ツ *	12	11	17	10	3	5	5
タ イ	2	3	2	4	1	3	
不 明 + 未 定		7	4	4	2	1	2
イ タ リ ア *	1	2	4	3	2	3	1
イ ギ リ ス	7	5	4	3	1	4	3
香 港	6	6	5	2	10	9	5
シ ン ガ ポ ー ル	3	2	5	2	7	5	8
ス イ ス	1		3	2	2	2	1
スウェーデン *	1		1				
エ ス ト ニ ア *	1						
リ ト ア ニ ア *	1						
フィンランド *	1						
中 国			2	2		4	2

輸 出 先	R6	R5	R4	R3	R2	R 元	H30
ア シ ャ ア	2	1	1	2			
東 南 ア ジ ア	2						
ハ ン ガ リ ー *	1	2		2			
カ ナ ダ	7	2	5	1	6	4	4
オーストラリア		1		1	2	4	2
ニュージーランド				1	1	1	1
ベ ル ギ ー *	1		1	1			1
スロバキア *				1			
チ ェ コ *	1		1				
モ ロ ッ コ		1	1	1			
デンマーク *	1			1			
ロ シ ア					2		
ウ ク ラ イ ナ					1		
ベ ト ナ ム		1			1		
ポーランド *	3	1	2			3	2
ブ ラ ジ ル	1	1				2	1
ポルトガル *						1	1
ス ペ イ ン *						1	
マ レ ー シ ア			4			1	
イ ン ド						1	
U A E		3				1	
メ キ シ コ							1
ブルガリア *							
フ ィ リ ピ ン							
インドネシア							
モ ン ゴ ル							
オ マ ー ン							
オーストリア	3	1					
出 品 茶 数	100	100	100	100	100	100	100
予 定 輸 出 国 合 計	168	147	162	154	171	183	153

(*印)は EU 加盟国

主要な輸出先は米国 44 点で、近年でも明らかな変動は見られなかった。他方で EU 向け 38 点及び EU 加盟国の国別向け 40 点を併せて EU 全体としては 78 点で、昨年度から大きく増加した。EU 一括とは別に、加盟国を特定しての出品が特に増加した。その他アジア向けの出品には変動は見られなかった。



図一1 輸出先国、地域別出品茶数

2. 残留分析方法及び結果の概要

(1) 検査方法

残留分析は下記の分析機関と方法により実施した。

1) 残留分析機関

ドイツ：Eurofins SOFIA GmbH (Berlin, Germany)

2) 残留分析方法

GC-MS、GC-MS/MS、LC-MS、LC-MS/MS で一斉または個別で分析を行った。

GC-MS/MS による分析：406 成分

LC-MS/MS による分析：368 成分

3) 分析対象成分

分析対象成分は、日本の茶で登録されている農薬と EU で分析検査対象になると思われる成分に、混入物、または汚染物質として問題視されている農薬以外の化学成分も加えて 744 成分の分析を行った。昨年度より大幅に追加した。

4) 定量限界 (minimum limit of determination, limit of quantitation; LOQ)

0.01 mg/kg (ppm)

(2) 個々の出品茶から検出された農薬成分数

令和 6 年度、および過去 5 年間の個々の出品茶から検出された成分数別に、茶数と残留検出件数を取り纏め、表-5 に示した。

表－5 検出された農薬成分数等別の茶数

残留検 出農薬 数(A)	R6		R5		R4		R3		R2	
	出品 茶数 (N)	残留検 出件数 (A×N)	出品 茶数 (N)	残留検 出件数 (A×N)	出品 茶数 (N)	残留検 出件数 (A×N)	出品 茶数 (N)	残留検 出件数 (A×N)	出品 茶数 (N)	残留検 出件数 (A×N)
0	29	0	35	0	31	0	32	0	28	0
1	24	24	20	20	20	20	15	15	22	22
2	17	34	8	16	11	22	8	16	7	14
3	9	27	8	24	6	18	7	21	10	30
4	5	20	2	8	7	28	11	44	6	24
5	4	20	10	50	5	25	6	30	6	30
6	5	30	2	12	4	24	6	36	4	24
7	3	21	4	28	4	28	4	28		
8					3	24	3	24	3	24
9			2	18	3	27	2	18		
10	1	10	1	10	2	20	1	10	4	40
11	2	22			2	22				
12			2	24						
13									1	13
14	1	14	1	14			1	14	1	14
15			1	15			1	15		
16			1	16						
17									2	34
18			1	18			1	18	2	36
19									1	19
20									1	20
21							1	21		
22			1	22	1	22				
23									1	23
24			1	24						
26					1	26				
27							1	27		
29									1	29
計	100	222	100	319	100	306	100	337	100	396
平均検 出数	2.2		3.2		3.1		3.4		4.0	

令和6年度の出品茶100点の検査で、農薬成分等が合計222件検出され、出品茶1点当たりの平均検出数は2.2（農薬成分）件で、昨年度より大幅に減少した。検出数の多い茶葉がかなり少なく、昨年度のような特に1茶葉当たり15以上の農薬成分が検出された出品茶が全くなかったことに起因するものと思われる。

(3) 茶種別の検出数と残留値

令和6年度、及び過去5年間の出品茶の茶種別に残留検出農薬数、平均残留検出農薬数、平均残留値を表-6に、茶種別残留検出農薬数を表-6-2に示した。

表-6 茶種別に検出された残留薬剤数と平均残留値

年度	茶種	煎茶	深蒸し 煎茶	抹茶・ 碾茶	玉露・ かぶせ 茶	紅茶・発 酵茶	粉末 緑茶	その他
R6	茶数	47	10	29	1	5	2	6
	残留検出薬剤数	69	33	95	6	10	2	7
	平均残留検出薬剤数	1.5	3.3	3.3	6	2	1	1.4
	平均残留値	0.13	0.10	0.19	0.03	0.10	0.02	0.10
R5	茶数	39	10	34	7	6	1	3
	残留検出薬剤数	101	29	148	17	8	0	16
	平均残留検出薬剤数	2.6	2.9	4.4	2.4	1.3	0.0	5.3
	平均残留値	0.20	0.14	0.24	0.12	0.14	0.00	0.16
R4	茶数	45	12	32	3	2	2	4
	残留検出薬剤数	72	43	159	13	5	10	14
	平均残留検出薬剤数	1.6	3.1	5.0	4.3	2.5	5.0	3.5
	平均残留値	0.22	0.10	0.26	0.03	0.36	0.41	0.36
R3	茶数	46	14	22	8	4	1	5
	残留検出薬剤数	121	65	102	22	9	14	4
	平均残留検出薬剤数	2.6	4.6	4.6	2.8	2.3	14	0.8
	平均残留値	0.37	0.1	0.26	0.14	0.01	0.13	0.01
R2	茶数	39	10	28	7	4	2	10
	残留検出薬剤数	92	20	175	18	10	24	57
	平均残留検出薬剤数	2.4	2	6.3	2.6	2.5	12	5.7
	平均残留値	0.19	0.05	0.27	0.16	0.33	0.13	0.13
R元	茶数	28	19	21	10	3	5	14
	残留検出薬剤数	50	58	114	43	7	19	46
	平均残留検出薬剤数	1.8	3.1	5.4	4.3	2.3	3.8	3.3
	平均残留値	0.31	0.12	0.28	0.37	0.05	0.08	0.11

表 6-2 令和 6 年度における茶種別残留検出農薬数

残留検 出農薬 数 (A)	煎茶	深蒸し 煎茶	抹茶・ 碾茶	玉露・ かぶせ 茶	紅茶・ 発酵茶	粉末緑 茶	その他	出品茶 数計	総検出数 計
0	20	1	5				3	29	0
1	9	1	9		3	2		24	24
2	8	2	5				2	17	34
3	3	3	1		1		1	9	27
4	3		1		1			5	20
5	2		2					4	20
6	1	2	1	1				5	30
7	1	1	1					3	21
8									
9									
10			1					1	10
11			2					2	22
12									
13									
14			1					1	14
15									
計	47	10	29	1	5	2	6	100	222
平均検 出数	1.5	3.3	3.3	6	2	1	1.4	2.2	

茶種別における令和 6 年度、および過去 5 年間の平均残留検出数を図- 2 に示した。

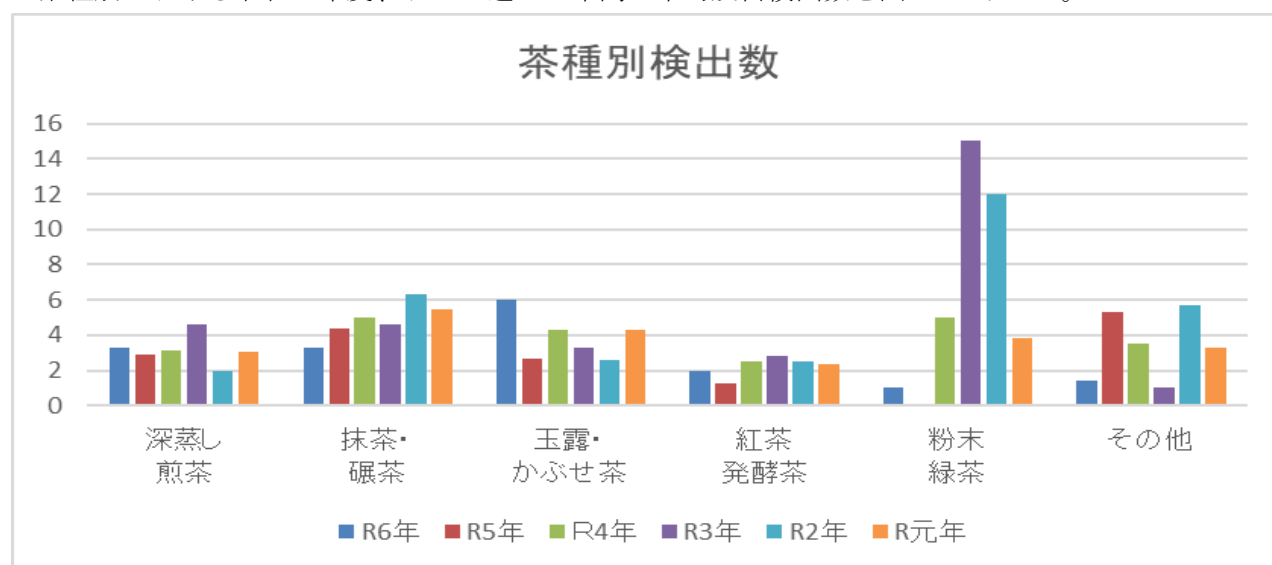


図- 2 茶種別平均検出数

茶種別の平均農薬検出数は、令和6年度は昨年度に比べて茶種全般において減少した。特に煎茶での減少は顕著で1茶葉当たり1.5農薬成分数であった。一方玉露で大きく増加したが、これは唯一の出品茶で多くの農薬成分が検出された結果によるものであった。ただし、過去のこれまでの結果では玉露においても減少の傾向である。

(平均残留値)

茶種別における令和6年度、及び過去5年間の平均残留値を図-3に示した。

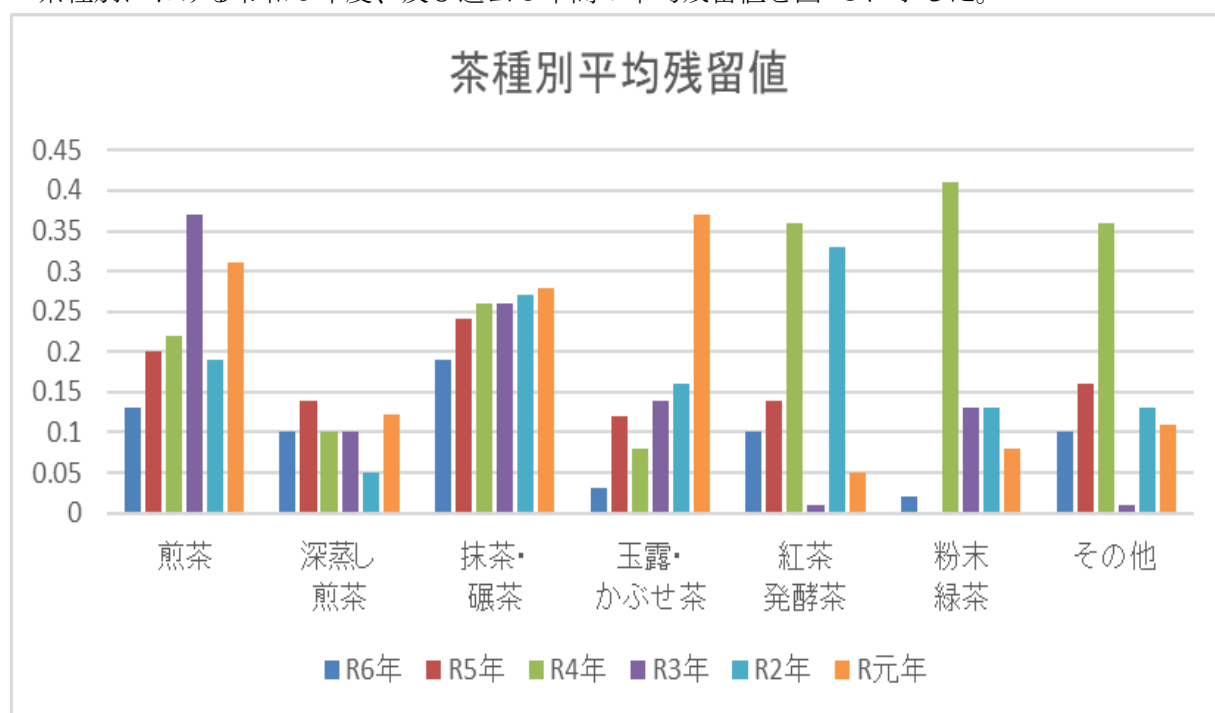


図-3 茶種別平均残留値

令和6年度の茶種別の平均残留値は、昨年度と比較するとすべての茶種で減少した。また平均残留値はこれまで過去6年間ににおいても明らかに減少の傾向がみられる。荒茶生産者の残留農薬に対する関心が年々高くなり、必要最小限度の農薬使用を遵守されていると思われ、また輸出に向けての茶葉の選択にも残留農薬の面から注意が払われていることがうかがえる。

(4) 茶期別の検出数と残留値

令和6年度、及び過去5年間の出品茶の茶期別に残留検出農薬数、平均残留検出農薬数、および平均残留値を表-7に、更に令和6年度の茶種別残留検出農薬数を表-7-2に示した。

表一7 茶期別検出数と平均残留値

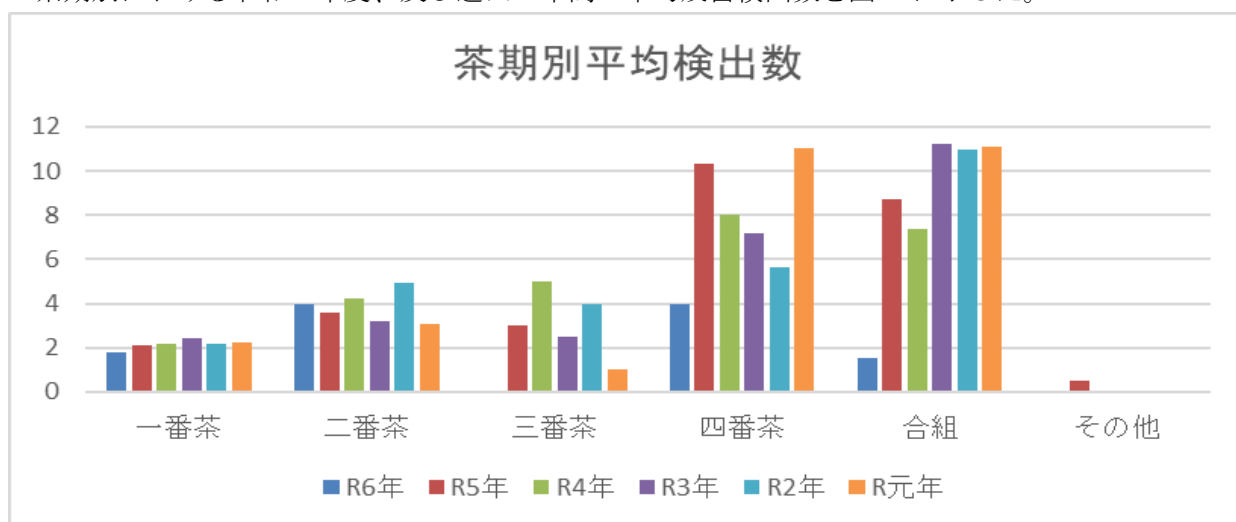
年度	茶 期	一番茶	二番茶	三番茶	四番茶	合組	不明
R6	茶数	78	15		3	4	
	残留検出薬剤数	144	60		12	6	
	平均残留検出薬剤数	1.8	4.0		4.0	1.5	
	平均残留値	0.15	0.49		0.07	0.02	
R5	茶数	74	8	3	6	7	2
	残留検出薬剤数	157	29	9	62	61	1
	平均残留検出薬剤数	2.1	3.6	3.0	10.3	8.7	0.5
	平均残留値	0.17	0.49	0.047	0.22	0.17	0.01
R4	茶数	81	9	1	1	8	
	残留検出薬剤数	181	38	5	8	74	
	平均残留検出薬剤数	2.2	4.2	5	8	9.5	
	平均残留値	0.2	0.64	0.08	0.06	0.16	
R3	茶数	69	17	2	5	5	2
	残留検出薬剤数	167	55	5	36	56	10
	平均残留検出薬剤数	2.4	3.2	2.5	7.2	11.2	5
	平均残留値	0.22	0.56	0.02	0.19	0.19	0.04
R2	茶数	68	13	1	3	15	
	残留検出薬剤数	147	64	4	17	164	
	平均残留検出薬剤数	2.2	4.9	4	5.7	10.9	
	平均残留値	0.22	0.37	0.11	0.08	0.16	
R 元	茶数	73	12	3	3	9	
	残留検出薬剤数	164	37	3	33	100	
	平均残留検出薬剤数	2.2	3.1	1	11	11.1	
	平均残留値	0.24	0.66	0.03	0.09	0.1	

表－7－2 令和6年度における茶期別残留検出農薬数

残留検出農薬数 (A)	一番茶	二番茶	三番茶	四番茶	合組	その他	出品茶数計	総検出数計
0	25	2		1	1		29	0
1	20	3			1		24	24
2	13	2		1	1		17	34
3	6	2			1		9	27
4	5						5	20
5	4						4	20
6	2	3					5	30
7	2	1					3	21
8							0	0
9							0	0
10				1			1	10
11		2					2	22
12							0	0
13							0	0
14	1						1	14
15								
計	78	154	0	3	4	0	100	222
平均検出数	1.8	4		4	1.5		2.2	

(平均検出数)

茶期別における令和6年度、及び過去5年間の平均残留検出数を図-4に示した。

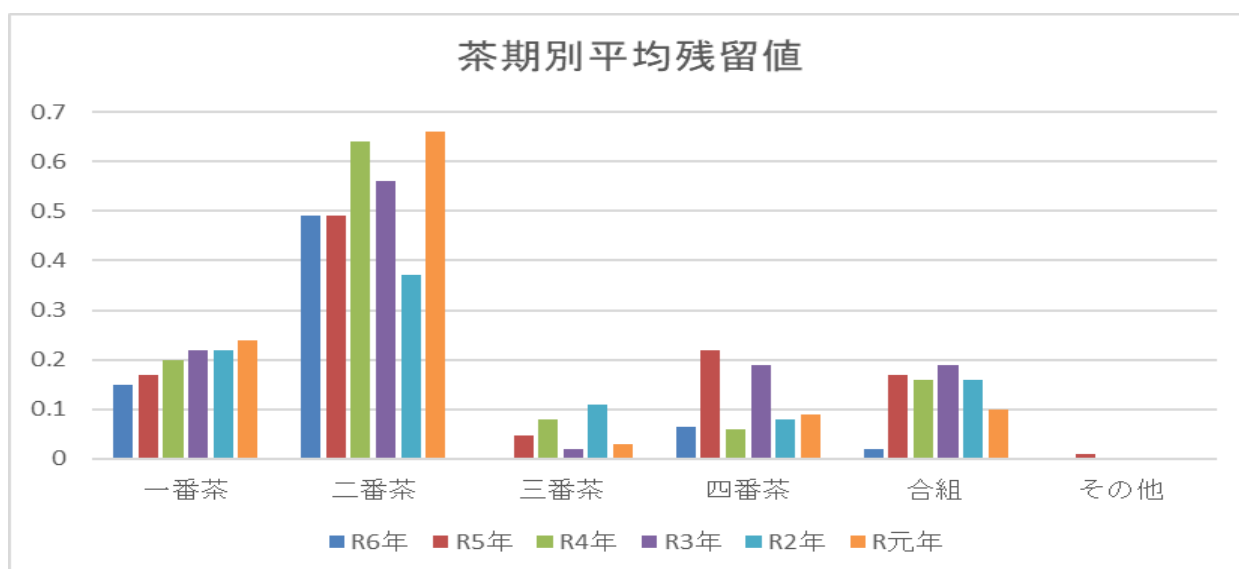


図－4 平均検出数

令和6年度の平均農薬検出数は、昨年度と比べて一番茶では減少したが、二番茶ではやや増加した。ただし四番茶（秋冬番茶）、合組で明らかに減少していた。

（平均残留値）

茶期別における令和6年度、及び過去5年間の平均残留値を図-5に示した。



図—5 平均残留値

令和6年度は昨年度と一番茶、四番茶、合組で減少していた。一方で二番茶はこれまで同様に平均残留値は高止まりし、減少の傾向も見られなかった。現在の慣行的な防除暦で栽培された二番茶は輸出向けの茶葉としては残留農薬のインポートトレランスの設定は必須と思われる。

（6）検出された農薬成分等の種類、検出数および平均残留値

令和6年度、及び過去2年間の検出された農薬成分等の種類とそれぞれの検出数、平均残留値を表-8に示した。

表—8 農薬等の種類別検出数と平均残留値

No.	農薬の種類	商品名	用途	R6 年度		R5 年度		R4 年度	
				検出数	平均残留値	検出数	平均残留値	検出数	平均残留値
1	フルベンジアミド	フェニックス	殺虫	17	0.01	18	0.03	7	0.05
2	リン酸トリフェニル	可塑剤、難燃剤		16	0.01	—		—	
3	クロラントラニプロール	サムコル	殺虫	16	0.03	18	0.03	15	0.03
4	フェンブコナゾール	インダー	殺菌	15	0.28	21	0.19	14	0.11
5	テブコナゾール	オンリーワン	殺菌	14	0.03	23	0.24	24	0.24

No.	農薬の種類	商品名	用途	R6 年度		R5 年度		R4 年度	
				検出数	平均 残留値	検出数	平均 残留値	検出数	平均 残留値
6	ジェチルトルアミド	虫よけ剤（忌避剤）（DEET）		13	0.09	8	0.05	10	0.04
7	フロニカミド	ウララ	殺虫	13	0.17	8	1.02	15	0.56
8	クロルフェナピル	コテツ	殺虫	12	0.38	32	0.27	28	0.43
9	チアメトキサム	アクタラ	殺虫	9	0.04	13	0.14	14	0.14
10	クロチアニジン	ダントツ	殺虫	9	0.16	17	0.41	17	0.13
11	イミダクロプリド	アドマイヤー	殺虫	6	0.01	9	0.01	10	0.01
12	ピリプロキシフェン	プルート	殺虫	6	0.01	7	0.01	15	0.02
13	エチプロール	キラップ	殺虫	6	0.24	6	0.06	5	0.18
14	ジフェノコナゾール	スコア	殺菌	6	0.13	16	0.12	15	0.21
15	トルフェンピラド	ハチハチ	殺虫	5	0.13	4	0.41	4	0.02
16	シアントラニリプロール	エクシレル	殺虫	5	0.04	5	0.16	4	0.07
17	シクラニリプロール	テッパン	殺虫	5	0.03	8	0.04	1	0.01
18	アントラキノン	バルブ製造の触媒、染料の中間体		5	0.01	2	0.01	3	0.01
19	ジノテフラン	スタークル	殺虫	4	0.40	11	1.07	16	1.02
20	フルフェノクスロン	カスケード	殺虫	4	0.03	9	0.24	9	0.21
21	ボスカリド	ナリア	殺菌	4	0.01	9	0.05	6	0.01
22	メトキシフェノジド	ファルコン	殺虫	4	0.01	12	0.15	11	0.52
23	チアクロプリド	バリアード	殺虫	3	3.19	4	0.08	7	0.06
24	ブプロフェジン	アプロード	殺虫	3	0.01	3	0.01	5	0.03
25	ジフェニルアミン	酸化防止剤		3	0.04	1	0.02		
26	フェンプロパトリン	ロディー	殺虫	2	0.35	7	0.24	5	0.11
27	フタルイミド	可塑剤など		2	0.32				
28	ビリフルキナゾン	コルト	殺虫	1	0.02	3	0.02		
29	アゾキシストロビン	アミスター	殺菌	1	0.08	7	0.12	3	0.1
30	エトキサゾール	バロック	殺虫	1	0.07	4	0.35	9	0.05
31	シフルメトフェン	ダニサラバ	殺虫	1	0.09	3	0.04	5	0.31
32	スピノサド	スピノエース	殺虫	1	0.02	1	0.01	1	0.01
33	リニュロン	ロロックス	除草	1	0.01	1	0.08	1	0.03
34	フェンピロキシメート	ダニトロン	殺虫	1	0.03	1	0.05	1	0.02
35	スピロメシフェン	ダニゲッター	殺虫	1	0.25			2	0.02
36	クロロタロニル（TPN）	ダコニール	殺菌	1	0.07			1	0.52

注）黄色網掛けは各々年度での検出数上位 10 位の薬剤を示す。橙色は 20 位までを示す。

No.	農薬の種類	商品名	用途	R6 年度		R5 年度		R4 年度	
				検出数	平均残留値	検出数	平均残留値	検出数	平均残留値
37	クレソキシムメチル	ストロビー	殺菌	1	0.06			1	4.6
38	トリフロシキストロビン	フリント	殺菌	1	0.01			1	0.03
39	アバメクチン	アグリメック	殺虫	1	0.03				
40	フェリムゾン	ブラシン	殺菌	1	0.01				
41	フサライド	ラブサイド	殺菌	1	0.02				
42	トランスフルとリン		防虫	1	0.01				
43	ルフェスロン	マッチ	殺虫			6	0.14	4	0.13
44	アセタミプリド	モスピラン	殺虫			4	0.19	6	0.72
45	ピラクロストロビン	ナリア	殺菌			4	0.02		
46	ビフルブミド	ダニコング	殺虫			2	0.05	1	0.05
47	プロパルギット	オマイト	殺虫			2	0.04		
48	カルベンダジム／ベノミル	ベンレート	殺菌			2	0.03		
49	マンデストロビン	スクレア	殺菌			1	0.04	1	0.02
50	シラフルオフェン	MR ジョーカー	殺虫			1	0.36		
51	ピリミジフェン	マイトクリーン	殺虫			1	0.06		
52	イソキサチオン	カルホス	殺虫			1	0.03		
53	テブフェノジド	ロムダン	殺虫			1	0.04		
54	アトラジン	ゲザプリム	除草			1	0.02		
55	ペルメトリン	アディオン	殺虫			1	0.19		
56	ペンディメタリン	ゴーゴーサン	除草			1	0.01		
57	シエノピラフェン	スターマイト	殺虫					2	0.01
58	ビフェントリン	テルスター	殺虫					1	0.01
59	テブフェンピラド	ピラニカ	殺虫					1	0.02
60	チアベンダゾール	防カビ剤						1	0.01
61	クロルピリホス	ダーズパン	殺虫					1	0.01
62	メチダチオン	スブラサイド	殺虫					1	0.02
63	ビフェニル（ジフェニル）	防カビ剤							
64	シメコナゾール	サンリット	殺菌						
65	テトラコナゾール	サルバトーレ	殺菌						
66	テフルトリン	フォース	殺虫						

No.	農薬の種類	商品名	用途	R6 年度		R5 年度		R4 年度	
				検出数	平均残留値	検出数	平均残留値	検出数	平均残留値
67	トリアジメノール	登録無し	殺菌						
68	クロルフルアズロン	アタブロン	殺虫						
69	クロマフェノジド	マトリック	殺虫						
70	テフルベンズロン	ノーモルト	殺虫						
71	ピペロニルブトキシド	殺虫剤用共力剤							
72	ピリダベン	サアンマイト	殺虫						
73	メタミドホス	アセフェート代謝物	殺虫						
合 計				222		319		306	

表－8－2 検出農薬の米国及び EU での残留基準値未設定の状況

薬剤検出数	令和 6 年度			令和 5 年度			令和 4 年度		
	検出数の占有 率	未設定薬剤数		検出数の占有 率	未設定薬剤数		検出数の占有 率	未設定薬剤数	
		米 国	E U		米 国	E U		米 国	E U
上位 1～10 農薬	60%	3	5	57%	1	6	57%	1	6
上位 1～(20～23)	84%	5	8	81%	5	13	83%	5	12
薬剤検出総数及び主要な 薬剤数(上位 20 薬剤)	222	22		319	21		306	23	

(検出された農薬等の種類と検出数)

令和6年度の検査では42種類の農薬等が検出された。昨年度は46種類であった。

本年度の平均検出数は2.2農薬成分/出品茶であった。前年の3.2(過去7年間で3.1~4.1)から大幅に減少した。茶葉あたりの検出数が多い出品茶が非常に少なかったことが主な要因と思われた。検出数で上位10剤が全検出数の約60%、上位20剤が約84%を占めていた。またこの傾向はこの5年間で大きな変動はなかった。即ち、毎年の上位20剤が主要な防除薬剤と思われた。

より詳細にみると、上位20農薬成分の中で毎年4~5農薬が前年から入れ替わっている状況で、特に上位10農薬成分ではほとんど変動はなかった。

令和6年度においても、農薬以外の一般化学物質(汚染物質)が多く検出された。本年度、新たに分析対象に加えたリン酸トリフェニルが16出品茶葉から検出され大きな驚きであった。本化学物質は一般的に難燃、可塑目的で広く使用されており、また環境ホルモンの疑いによりEUで本年度指定リストに記載された。また従来からのジエチルトルアミド(DEET)、アントラキノン、ジフェニルアミンも検出された。

令和6年度の検査で、残留値が1 mg/kgを超過した事例を表-9に示した。

表-9 高濃度が検出された農薬と茶種、茶期

No.	農薬の種類	総検出数	平均残留値mg/kg	高濃度検出数	残留値kg/kg	高濃度が検出された茶種	高濃度が検出された茶期
7	クロルフェナピル	12	0.38	1	1.3	煎茶	2
10	クロチアニジン	9	0.16	1	1.0	煎茶	1
19	ジノテフラン	4	0.40	1	1.1	碾茶	1
21	チアクロプリド	3	3.19	1	3.1	煎茶	1

(平均残留値)

令和6年度の検査で1 mg/kgを超える残留値が4薬剤(4出品茶)で検出されたが、昨年度(7薬剤/12出品茶)からは大幅な改善となった。1出品茶のみでチアクロプリド9.1 mg/kgが検出されたが、これは非常に例外的な超過事例と思われた。高濃度の検出事例は全般的に少なく、農薬は適正に使用されているものと思われた。

3. 輸出相手国の残留農薬基準(MRL)と検出残留値の概要

令和6年度の検査で検出された42農薬成分等とその222件の残留値を日本、および主要輸出国の米国、EU、台湾、香港、シンガポールの6ヶ国の残留農薬基準(以下、MRLと表記する)と照合し、残留値がMRL以下の場合は「合格」、MRLを超えている場合は「不合格」と表現した。

なお、MRLが設定されていない農薬等については、日本、EU、およびシンガポールは0.01 mg/kg以下、および米国、台湾、香港は0.01 mg/kg未満、つまり不検出を「合格」とした。

また、EUとは出品者からの輸出国の申告としてEU、欧州、ヨーロッパの他に、EU加盟国のなかでドイツ、フランス等個別に申告された国を加えた総計である。またイギリス及びスイスは非EU加盟国であるが、輸入規制において残留農薬基準値はほぼ同様に設定されておりEUとして集計した。

表—10 検出された農薬等の各国での合格率

No	農薬成分	検出 数	平均残	分野	MOA	合格数					
			留値			日本	USA	E U	台湾	香 港	シンガ ポール (CODEX)
			mg/kg								
1	フルベンジアミド	17	0.011	殺虫	28	17	17	17	17	17	17
2	クロラントラニリプロール	16	0.029	殺虫	28	16	16	16	16	0	16
3	リン酸トリフェニル	16	0.009			11	11	15	11	11	11
4	フェンブコナゾール	15	0.282	殺菌	G1-3	15	15	10	15	15	15
5	テブコナゾール	14	0.034	殺菌	G1-3	14	5	13	14	14	14
6	フロニカミド	13	0.167	殺虫	29	13	13	8	13	1	13
7	ジェチルトルアミド (DEET)	13	0.087			1	1	1	1	1	1
8	クロルフェナピル	12	0.375	殺虫	13	12	12	12	12	0	12
9	クロチアニジン	9	0.165	殺虫	4A	9	9	9	9	8	8
10	チアメトキサム	9	0.036	殺虫	4A	9	9	9	9	9	9
11	ジフェノコナゾール	6	0.13	殺菌	G1-3	6	6	4	6	6	6
12	イミダクロプリド	6	0.008	殺虫	4A	6	4	6	6	4	6
13	ピリプロキシフェン	6	0.013	殺虫	7 C	6	6	6	6	6	6
14	エチプロール	6	0.238	殺虫	2B	6	6	6	6	6	6
15	シクラニリプロール	5	0.029	殺虫	28	5	5	5	5	4	5
16	シアントラニリプロール	5	0.043	殺虫	28	5	5	1	5	4	4
17	トルフェンピラド	5	0.134	殺虫	21 A	5	5	1	5	5	5
18	アントラキノン	5	0.009			5	3	5	3	3	3
19	メトキシフェノジド	4	0.014	殺虫	18	4	4	4	4	4	4
20	ジノテフラン	4	0.395	殺虫	4A	4	4	0	4	4	0
21	フルフェノクスロン	4	0.031	殺虫	15	4	0	4	4	4	4
22	ボスカリド	4	0.008	殺菌	C2-7	4	4	4	4	3	4
23	チアクロプリド	3	3.19	殺虫	4A	3	3	3	3	3	3
24	ブプロフェジン	3	0.007	殺虫	16	3	3	3	3	3	3
25	ジフェニルアミン	3	0.038			3	2	3	2	2	2

			残留農薬基準値 (MRL) : mg/kg (ppm)					
No.	農薬成分	商品名	日本	USA	EU	台湾	香港	シンガ ポール (CODEX)
1	フルベンジアミド	フェニックス	50	50	50	1	50	50
2	クロラントラニリプロール	サムコル 10J	50	50	80	2		50
3	リン酸トリフェニル		0.01		0.01			
4	フェンブコナゾール	インダー	30	30	0.05*	5	10	10
5	テブコナゾール	オンリーワン	80		0.05*	10	25	50
6	フロニカミド	ウララ	40	40	0.1*	5		40
7	ジエチルトルアミド (DEET)		0.01		0.01			
8	クロルフェナピル	コテツ	40	70	50	2		60
9	クロチアニジン	ダントツ	50	70	0.7	5	0.7	0.7
10	チアメトキサム	アクタラ	20	20	20	1	20	20
11	ジフェノコナゾール	スコア	15	15	0.05*	5	10	15
12	イミダクロプリド	アドマイヤー	10		0.05*	10		50
13	ピリプロキシフェン	ブルート MC	15	15	15	5	15	15
14	エチプロール	キラップ	10	30	0.01	10		
15	シクラニリプロール	テッパン	50	50	0.05*	15		50
16	シアントラニリプロール	エクシレル	30	30	0.05*	1.5		
17	トルフェンピラド	ハチハチ	20	30	0.01	10		30
18	アントラキノ		0.01		0.02*			
19	メトキシフェノジド	ファルコン	70	20	80	10	20	80
20	ジノテフラン	スタークル	25	50	0.01*	10	25	
21	フルフェノクスロン	カスケード	20		15	15	15	20
22	ボスカリド	ナリアの一剤	60	70	40	10		40
23	チアクロプリド	バリアード	25		10	10	30	10
24	ブプロフェジン	アプロード	30	20	0.05*	1	10	30
25	ジフェニルアミン		0.05		0.05			

*は検出限界値

						合格数					
No	農薬成分	検出数	平均残	分野	MOA	日本	USA	E U	台湾	香港	シンガ ポール (CODEX)
			留値 mg/kg								
26	フェンプロパトリン	2	0.354	殺虫	3A	2	2	2	2	2	2
27	ホルペット	2	0.32	殺虫	4A	2	0	1	0	0	0
28	アゾキシストロビン	1	0.082	殺菌	C3-11	1	1	1	1	1	1
29	エトキサゾール	1	0.066	殺虫	10 B	1	1	1	1	1	1
30	アバメクチン	1	0.031	殺菌	C3-11	1	1	1	0	1	0
31	シフルメトフェン	1	0.087	殺虫	25 A	1	1	1	0	1	0
32	ピリフルキナゾン	1	0.017	殺虫	9 B	1	1	1	0	1	0
33	クロロタロニル	1	0.07	殺虫	25 B	1	1	1	0	1	0
34	スピロメシフェン	1	0.25	殺虫	1 2 C	1	1	1	1	1	1
35	クレソキシムメチル	1	0.063	殺菌	B1- 1	1	0	1	1	1	0
36	トリフロシキストロビン	1	0.055	殺虫	21 A	1	1	1	0	1	0
37	ピリプロキシメート	1	0.025	殺菌	C3-11	1	1	1	0	1	1
38	スピノサド	1	0.016	殺虫	5	1	1	1	0	1	0
39	リニュロン	1	0.014	除草		1	1	1	0	1	0
40	フェリムゾン	1	0.009	殺虫	3A	1	1	1	1	1	1
41	フサライド	1	0.015	殺虫	21 A	0	0	1	0	0	0
42	トランスフルトリン	1	0.014	殺虫	1 B	0	0	1	0	0	0
検出件数合計		222	合格数合計			203	182	183	190	152	184
			合格率			91%	82%	82%	86%	68%	83%

			残留農薬基準値 (MRL) : mg/kg (ppm)					
No.	農薬成分	商品名	日本	USA	EU	台湾	香港	シンガ ポール (CODEX)
26	フェンプロパトリン	ロディー	25	2	2	10	2	3
27	ホルペット		0.01		0.1*			
28	アゾキシストロビン	アミスター	10	20	0.05*	5	10	10
29	エトキサゾール	バロック	15	15	0.05*	5	15	15
30	アバメクチン		1	1	0.05*			
31	シフルメトフェン	ダニサラバ	40	40	0.01	5		
32	ピリフルキナゾン	コルト	20	20	0.01*	15		
33	クロロタロニル		10		0.05*		10	
34	スピロメシフェン		30	40	50	30	30	70
35	クレソキシムメチル		15		0.05*	10	20	
36	トリフロシキストロビン		5	5	0.05*	1		
37	ピリプロキシメート	ダニトロン	40	20	8	5		8
38	スピノサド	スピノエース	2	2	0.1*	1		
39	リニュロン	ロロックス	0.02		0.05*	0.5		
40	フェリムゾン	ブラシン	0.01		0.01			
41	フサライド	ラブサイド	0.01		0.01			
42	トランスフルトリン		0.01		0.01			
			空欄は 0.01ppm 未満					

(1) 検出された農薬等の各国での合格率

日本の合格率は83%で、前年からは大幅に低下した。ただし違反した成分は茶の防除薬剤ではなく、主に虫除けスプレー剤などの一般的な化学物質があった。

米国の合格率は68%で、日本同様に前年から大幅に低下した。5農薬成分が超過したがいずれもインポートトレランス未設定であり、また一般化学物質も4成分検出された。

EUの合格率は86%で、前年からは改善した。3農薬成分が超過したがいずれもインポートトレランス未設定であり、一般化学物質も2成分検出された。

主要な輸出先国に対して、一般化学物質の検出も無視できない状況となっており何らかの対応が必要と思われた。

以下、日本および主な輸出先国について考察した。

米国向けにおいて、本年度、上位10薬剤では3薬剤のインポートトレランスが未設定であった。しかし、その内2薬剤はいわゆる一般化学物質で、農薬ではない状況であり、殺菌剤テブコナゾールのみ未設定であった。上位20農薬成分までみても、5農薬成分が未設定と少なく、その内3成分が一般化学物質であった。

EU向けとして、本年度、上位20農薬成分の内13農薬が未設定であった。上位10農薬でも半数が未設定であった。この状況はこの5年間ほぼ同様な状況であり、大きな改善は見られていない。EUでの農薬への登録規制の厳しさによるものと思われた。

(2) 日本国内向け

令和6年度の日本の合格率は83%で、前年からは大幅に低下した。その主な原因は虫除けスプレー剤などの一般化学物質の汚染によるものであった。農薬成分では水稻用殺菌剤であるフサライドとフェリムゾンが各々1出品茶から検出された。両薬剤は茶の残留農薬基準値は設定されておらず、フサライドは一律基準値0.01 mg/kgを僅かに超過し、フェリムゾンは0.01 mg/kg未満であった。汚染の原因は現時点では明確ではないが、近隣水田での使用からのドリフトによると思われた。

一般化学物質では、リン酸トリフェニル、フタルイミド、アントラキノン、ジフェニルアミン、トランフルトリンなど多くの化学物質が検出されて不合格率を増加した。近年では、農薬の残留超過事例よりも、基準値の設定されていないこれら一般化学物質が増加傾向にあるように思われた。

表—11 茶期別の合格・不合格

茶期	総数	合格	不合格	合格率
総数	100	83	17	83%
一番茶	78	64	14	82%
二番茶	15	13	2	87%
三番茶	0	0	0	
四番茶	3	3	0	100%
合 組	4	3	1	75%
その他	0	0	0	

表一12 茶種別の合格・不合格

茶種	総数	合格	不合格	合格率
総数	100	83	17	83%
煎茶	47	38	9	81%
深蒸し煎茶	10	10	0	100%
碾茶・抹茶	29	23	6	79%
玉露・冠茶	1	0	1	0%
紅茶・発酵茶	5	4	1	80%
粉末緑茶	2	2	0	100%
その他	6	6	0	100%

表一13 不合格の原因となった農薬等の種類と検出数

成分	検出数	残留値	MRL	分野
ジェチルトルアミド	12	0.008～0.51	0.01	
リン酸トリフェニル	5	0.01～0.02	0.01	
フサライド	1	0.015	0.01	殺菌剤
トランスフルトリン	1	0.014	0.01	防虫剤

(3) 米国向け

出品茶 44 点の内、14 点が不合格であった。

令和 6 年度の合格率は 68% で、前年から大幅に低下した。

これまでの合格率は令和 5 年度（85%）、令和 4 年度（60%）、令和 3 年度（72%）、令和 2 年度（64%）、令和元年（49%）、平成 30 年（43%）であった。

残留農薬が検出された主な出品茶は一番茶と碾茶・抹茶で、合格率は昨年度から大幅に低下した。米国向けでは主要な防除薬剤の多くは残留基準値が設定されてきており、本年度の違反事例ではテブコナゾールとフルフェノクスロン以外は基準値のある適切な代替え農薬があると思われる。使用農薬をより慎重に選択すべきであったと思われる。一方で一般的な化学物質の汚染事例が増加して、全体の合格率を低下させ本年度の大幅な低下の主要な原因となった。使用が設定されていない状況だが、本年度は農薬以外の一般化学物質の違反事例が全体の半数に及び大きな原因となった。

「インポートトレランス申請支援事業」により、これまでに新たなインポートトレランス設定が着実に進められ、これまでに以下 12 薬剤に設定された。

- * 平成 29 年度（1 薬剤）：フルベンジアミド
- * 平成 30 年度（3 薬剤）：クロルフェナピル、ピリフルキナゾン、スピネトラム
- * 令和元年（3 薬剤）：フェンブコナゾール、トリフロシキストロビン、スピノサド
- * 令和 2 年（2 薬剤）：エマメクチン安息香酸塩、ピフルブミド

- * 令和4年（1薬剤）：トリフルラリン
- * 令和5年（1薬剤）：カスガマイシン、テトラニリプロール
- * 現在は1薬剤が申請中である。

インポートトレランスの設定はかなり達成されてきているが、主要な防除薬剤のすべてで設定されているわけではないし、また今後の設定作業においては、登録制度及び必要経費においてより厳しく状況になると思われる。従って、基準値の設定されている薬剤をより有効に活用することと、一方で農薬以外の一般化学物質の汚染防止により有効な対策を整備することが重要と思われる。

表一14 茶期別の合格・不合格

茶期	総数	合格	不合格	合格率
総数	44	30	14	68%
一番茶	35	24	11	69%
二番茶	6	3	3	50%
三番茶				
四番茶	2	2	0	100%
合組	1	1	0	100%
その他				

表一15 茶種別の合格・不合格

茶種	総数	合格	不合格	合格率
総数	44	30	14	68%
煎茶	15	12	3	80%
深蒸し煎茶	3	3	0	100%
碾茶・抹茶	21	13	8	62%
玉露・冠茶	1	0	1	0%
紅茶・発酵茶	1	0	1	0%
粉末緑茶				
その他	3	2	1	100%

表一16 不合格の原因となった農薬等の種類と検出数

成分	違反検出数	残留値	MRL	分野
テブコナゾール	5	0.014～0.037	不検出	殺菌
ジェチルトルアミド	5	0.015～0.28		
フルフェノクスロン	3	0.01～0.075	不検出	殺虫
チアクロプリド	2	0.36～9.1	不検出	殺虫
リン酸トリフェニル	2	0.012		
ジフェニルアミン	1	0.038		
クレソキシムメチル	1	0.063	不検出	殺菌
イミダクロプリド	1	0.011	不検出	殺虫
アントラキノ	1	0.01		

(4) EU 向け

出品茶 64 点の内、9 点が不合格であった

令和 6 年度の合格率 86%で、前年から少し改善した。

これまでの合格率は、令和 5 年度（83%）、令和 4 年度（74%）、令和 3 年度（81%）、令和 2 年度（64%）、令和元年（60%）、平成 30 年度（56%）であった。

主要な輸出用茶葉である一番茶、煎茶においては、合格率は各々少し改善された。

合格率はこれまでに着実に改善されてきてはいるが、依然として満足できる状況に達していないのは、病虫害防除の主要薬剤でインポートトレランスが設定されている薬剤が非常に少ないことである。主要な防除薬剤（残留農薬検査の検出薬剤数から想定して）上位 10 薬剤の中で設定されているのは 3 薬剤、上位 20 薬剤までも 7 薬剤と半数以下の状況である。炭疽病やもち病の主要な防除薬剤で治療効果もあるテブコナゾール、フェンブコナゾール、ジフェコナゾール、また吸汁害虫防除薬剤のジフロニカミド、エチプロールなどは未設定である。主に一番茶で使用されてきた殺ダニ剤のエトキサゾールが本年 4 月に再評価により基準値が削除され、さらに現在は基準値があるネオニコチノイド剤のクロチアニジンとチアメトキサムが次年度には削除される見通しであり、ますます厳しい状況になると思われる。

EU では、統合後の厳しい登録規制によりインポートトレランスの設定は順調には進んでいないが「インポートトレランス申請支援事業」により、本年 5 月にエマメクチン 0.09 mg/kg とクロラントラニリプロール 50 mg/kg が設定され前進となった。

このような状況の中で、Codex への申請を並行・先行させて、併せて EU での基準値採用を期待する対応策も次第に普及し、「支援事業」でもいくつかの薬剤で Codex 申請をすでに実施中である。

表—17 茶期別の合格・不合格

茶期	総数	合格	不合格	合格率
総数	64	55	9	86%
一番茶	51	44	7	86%
二番茶	8	7	1	88%
三番茶				
四番茶	1	1	0	100%
合組	4	3	1	75%

表—18 茶種別の合格・不合格

茶種	総数	合格	不合格	合格率
総数	64	55	9	86%
煎茶	35	30	5	86%
深蒸し煎茶	8	6	2	75%
碾茶・抹茶	12	11	1	92%
玉露・冠茶	0	0	0	
紅茶・発酵茶	4	3	1	75%
粉末緑茶	1	1	0	100%
その他	4	4	0	100%

表—19 不合格の原因となった農薬等の種類と検出数

成分	検出数	残留値	MRL	分野
フロニカミド	3	0.22～0.55	0.1*	殺虫
ジノテフラン	2	0.15～1.1	0.01*	殺虫
ジェチルトルアミド	1	0.027		
リン酸トリフェニル	1	0.02		
トルフェンピラド	1	0.04	0.01*	殺虫

(5) 台湾向け

出品茶 15 点で 1 点のみ不合格であった。

蚊よけ防虫剤 DEET（ジエチトルアミド）によるものであった。

表—20 茶期別の合格・不合格

茶期	総数	合格	不合格	合格率
総数	15	14	1	93%
一番茶	11	11	0	100%
二番茶	2	2	0	100%
三番茶	0	0	0	
四番茶	1	1	0	100%
合組	1	0	1	0%

表—21 茶種別の合格・不合格

茶種	総数	合格	不合格	合格率
総数	15	14	1	93%
煎茶	5	4	1	80%
深蒸し煎茶	2	2	0	100%
碾茶・抹茶	7	7	0	100%
玉露・冠茶	0	0	0	
紅茶・発酵茶	0	0	0	
粉末緑茶	1	1	0	100%

表—22 不合格の原因となった農薬等の種類と検出数

成分	違反検出数	残留値	MRL	分野
ジエチトルアミド	1	0.027		

(6) シンガポール向け

出品茶 6 点の内、4 点が不合格となり大幅な低下であった。

本年度の出品は全て一番茶であり、煎茶が主体であったが不合格が増加した。

しかし違反となったクロチアニジンは基準値が設定されているなかでの異常値が検出された結果であり、シントラニリプロールは Codex 審査が進んでいるので、今後の改善が期待される。

表—23 茶期別の合格・不合格

茶期	総数	合格	不合格	合格率
総数	6	2	4	33%
一番茶	5	2	4	33%
二番茶				
三番茶				
合組				

表—24 茶種別の合格・不合格

茶種	総数	合格	不合格	合格率
総数	6	2	4	33%
煎茶	5	2	3	40%
深蒸し煎茶				100%
碾茶・抹茶	1	0	1	0%
玉露・冠茶				
紅茶・発酵茶				
粉末緑茶				

表—25 不合格の原因となった農薬等の種類と検出数

成分	検出数	分析値	MRL	分野
ジェチルトルアミド	2	0.11～0.51		
クロチアニジン	1	1.0		
シアントラニリプロール	1	0.026		
フサライド	1	0.015		

(7) 香港向け

出品茶 6 点の内、4 点が不合格だった。

過去の合格率は、令和 5 年度（100%）、令和 4 年度（0%）、令和 3 年度（50%）、令和 2 年（40%）と年次的な変動が大きかった。残留基準値が設定されている薬剤数も他国と比較して少なく、出品茶の選定には農薬使用履歴などを確認することが必要と思われた。

表—26 茶期別の合格・不合格

	総数	合格	不合格	合格率
総数	6	2	4	33%
一番茶	4	1	3	25%
二番茶	1	0	0	0%
三番茶				
四番茶				
合組	1	1	0	100%

表—27 茶種別の合格・不合格

茶種	総数	合格	不合格	合格率
総数	6	2	4	33%
煎茶	3	1	2	33%
深蒸し煎茶	2	1	1	50%
碾茶・抹茶	1	0	1	0%
玉露・冠茶				
紅茶・発酵茶				
粉末緑茶				

表—28 不合格の原因となった農薬等の種類と検出数

成分	検数	残留値	MRL	分野
クロルフェナピル	3	0.05～0.09		
クロラントラニリプロール	1	0.016		
ジェチルトルアミド	1	0.51		
トルフェンピアラド	1	0.037		
フサライド	1	0.015		
フロニカミド	1	0.5		

4. 農薬以外の化学物質（汚染物質）の検出

茶の栽培、収穫、製茶、梱包などの行程において、農薬以外の化学物質が茶葉を汚染する可能性が指摘されており、令和6年度もこれまで通りにDEET(ジエチルトルアミド)、アントラキノン、ジエチルアミンが検出された。また新たに分析対象に加えたリン酸トリフェニルが多くの出品茶で検出された。

DEETは虫除けスプレー剤の成分であり、一般家庭、野外活動でごく普通に使用されている。近年は高濃度製品も普及して汚染のリスクも増大していると思われる。

DEETは農薬ではないので残留基準値が設定されていないが、EUなどでは食品中への汚染に関心が高まってきている状況である。現在は一部の食品（ハーブティー、野生キノコなど）にEU域内での自主的な基準値が設定・運用されていて、流通規制の最終判断は検出された当該国に任されている。茶の輸出に当たっては注意が必要である。

本年度は13出品茶から検出され、前年から大幅に増加した。また平均検出値はこれまでで最大値であったがこれは2出品茶の異常値に起因すると思われ、全体的にはこれまでよりは微量であった。平均検出値（±SD）は以下のとおりである。

- * 令和6年度 13出品茶：0.09±0.147 mg/kg
- * 令和5年度 8出品茶：0.046±0.028 mg/kg
- * 令和4年度 10出品茶：0.054±0.074 mg/kg
- * 令和3年度 9出品茶：0.036±0.030 mg/kg
- * 令和2年度 13出品茶：0.041±0.040 mg/kg

茶葉の出品者毎（生産現場）の検出状況を確認する目的で、これまでの5年間の出品者ごとの検出事例を取りまとめた。

本年度もこれまで通りに静岡県からの一番茶での検出が多い傾向が見られた。特定の4出品者からは5年連続で検出されている状況であり、これまでの毎年度の出品茶の生産条件などは明確に確認できていなが、今後の汚染防止の為に原因究明していく必要があると思われた。

一方で、新たな出品者においても検出されており、注意喚起がまだまだ徹底されていないと思われた。

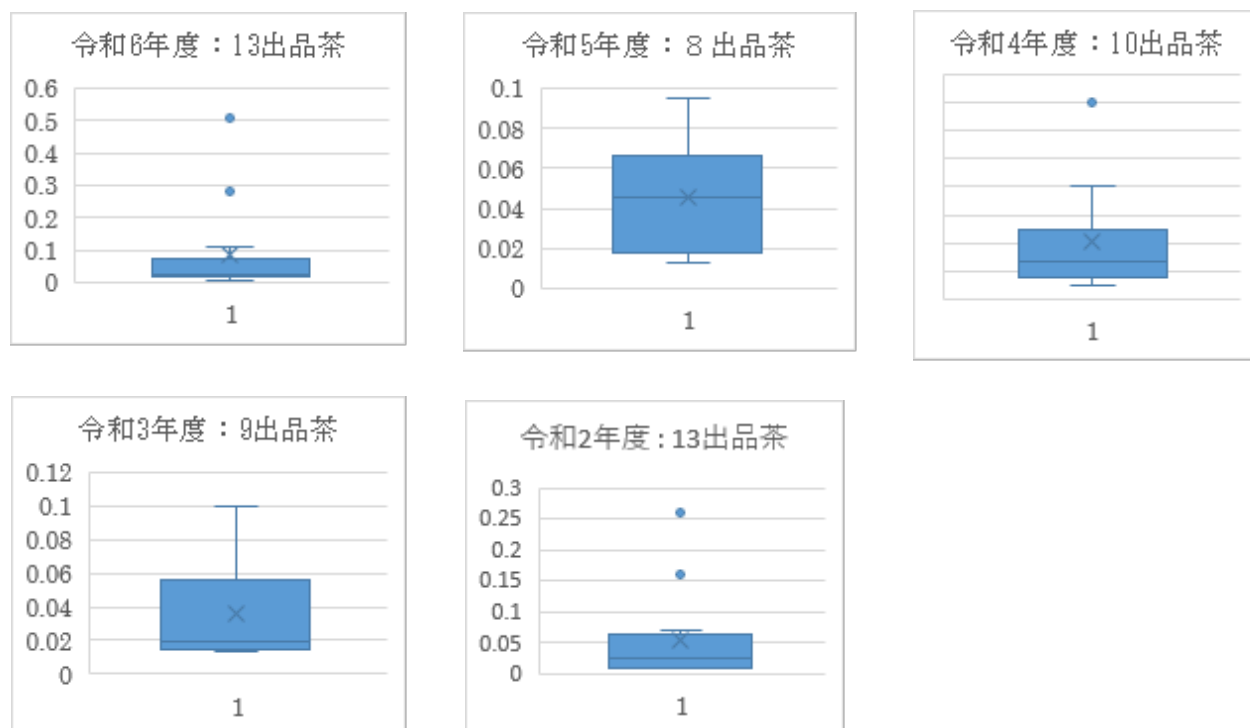
表-29 DEET 検出値

出品者	所在地	茶種	茶期	DEET 検出値 (mg/kg) X: 不検出 空欄: 未検査				
				R6	R5	R4	R3	R2
A	静岡県	煎茶	1	0.044	0.057	0.080	0.017	0.160
B	静岡県	煎茶	2	0.008	0.095	0.023	x	0.055
C	静岡県	煎茶	1	0.510	0.027	0.030		0.016
D	静岡県	紅茶	1	0.021	0.069	x		0.026
E	静岡県	碾茶	1	0.015				
F	静岡県	煎茶	1	0.280				
G	静岡県	煎茶	1	0.110				
H	静岡県	煎茶	1	0.031				
I	静岡県	煎茶	1	0.025				
J	静岡県	碾茶	1	0.023				
K	静岡県	玉露	1	0.018				
L	静岡県	煎茶	1		0.050	x		0.072
M	静岡県	玉露	1		0.013	0.140		
N	静岡県	煎茶	1		0.042	0.026	x	
O	静岡県	煎茶	1			0.014	x	x
P	静岡県	煎茶	1			0.026		
Q	静岡県	煎茶	1			0.040		
R	静岡県	抹茶	1		x	0.010		
S	静岡県	玉露	1				0.053	
T	静岡県	煎茶	1				0.100	
U	静岡県	玉露	1		x		0.015	
V	静岡県	煎茶	1				0.060	

表-29 DEET 検出値

出品者	所在地	茶種	茶期	DEET 検出値 (mg/kg) X:不検出 空欄:未検査				
				R6	R5	R4	R3	R2
W	静岡県	玉露	1		x	x	0.013	0.028
Y	静岡県	釜炒り	1・2		x	x	x	0.010
Z	静岡県	煎茶	1		x		x	0.026
AA	静岡県	煎茶	2				x	0.010
BB	埼玉県	煎茶	1					0.010
CC	京都府	煎茶	1・2	0.027				
DD	京都府	煎茶	1				0.014	
EE	京都府	抹茶	1・2			0.016	x	x
FF	京都府	抹茶	1					0.011
GG	奈良県	碾茶	2	0.019				
HH	愛媛県	発酵茶	1				0.019	
II	福岡県	玉露	1		0.015		0.032	
JJ	長崎県	玉緑茶	1					0.024
検出出品茶数				13	8	10	9	13

図-6 ジエチルトルアミドの平均残留値と標準偏差



本年度に初めてリン酸トリフェニルとトランスフルトリンが検出されたが、これらは新たに分析対象として追加された化学物質であった。特にリン酸トリフェニルは100 出品茶中で16 点に検出され大きな驚きであった。検出値は全体的には微量ではあったが、昨年度までの汚染状況は検査されておらず汚染源は現時点では不明である。難燃剤や可塑剤として広く使用されているが、ECHA（欧州化学機関）から2024 年11 月に環境ホルモン様物質としてEU 管理物質の候補リストに記載すると公表されており、今後、食品での監視動向がどうなるか懸念される。

トランスフルトリンは一般家庭用の防虫剤で初めて検出された。その他でアントラキノン、ジフェニルアミンと及びフタルイミドも検出されたが、いずれも微量であった。

5. 本事業の総括と今後の対応

令和6 年度の残留農薬検査の結果について、概要を取りまとめ考察をした。

結果の概要を昨年度と比較すると、出品県、茶種、茶期においてほぼ同様であったが、残留農薬の種類と検出数においては大幅に減少した。輸出先に関しては米国向けがやや減少し、EU 向けが増加した。

主要な出品茶である煎茶と碾茶・抹茶及び一番茶においては、残留農薬検出の出品茶数、残留量はかなり減少し全般的に改善の傾向が見られた。ただし、残念ながら米国むけにおいて不合格率が増加した結果となった。この主な原因としては一般的な化学物質の汚染件数が前年から大幅に増加し、違反件数の半数を占めたことに起因していた。今後、汚染防止の改善が必要と思われる。

令和6 年度含めてこれまでの検査結果を総合して考察すると、

- * 出品茶の農薬検出件数は減少してきており、平均検出数でも僅かながら減少傾向にある。
- * 出品茶当たりの検出農薬数は減少傾向にある。令和6 年度は顕著であった。
- * 平均残留量においても主要な一番茶や煎茶で減少してきている。

* 農薬残留基準値に対する合格率（基準値未満や一律基準値未満の割合）及び出品茶での合格率において、米国及びEU では改善してきている。

但し、米国での出品茶合格率は令和6 年度に残念ながら低下した。出品茶の選択において散布履歴などより注意する必要があると思われる。

（表－30 を参照）

表—30

項目		R6	R5	R4	R3	R2	R 元
農薬検出数/累積出 品茶数 (N/%)	0	29	35	31	32	28	30
	0～1	53	55	51	47	50	46
	0～2	70	63	62	55	57	58
	0～5	88	83	80	79	79	74
	0～10	97	92	96	95	90	89
	0～29	100	100	100	100	100	100
平均農薬検出数	農薬/出品茶	2.2	3.2	3.1	3.4	4	3.4
平均残留値 (mg/kg)	一番茶	0.15	0.17	0.2	0.22	0.22	0.24
	煎茶	0.13	0.2	0.22	0.37	0.19	0.31
	碾茶・抹茶	0.19	0.24	0.26	0.26	0.27	0.28
基準値合格率(%)	米国	82	86	82	79	70	68
	EU	82	79	73	67	64	63
出品茶合格率(%)	米国	68	85	60	72	64	49
	EU	86	83	74	81	52	60

茶葉の残留農薬に関連しては、上述したようにこれまで改善されてきているが、まだ満足できる合格率にはまだ達していない。この背景として、主要な防除薬剤の中でインポートトレランスの設定が進んできてはいるが、まだ十分とは言えない状況である。また EU ではかなりの薬剤がまだ未設定の状況であり、一方で本年度エトキサゾールの基準値が削除され、また 2026 年ネオニコチノイド 2 剤（チアメトキサム、クロチアニジン）の基準値も削除されることを考慮すると、EU 輸出向けに使用できる農薬がますます限定される状況になる。

「インポートトレランス申請支援事業」の活動により、米国では本年度カスガマイシンの設定により全体として農薬 11 剤が設定されてきており、さらに 3 剤が現在申請中である。反面、EU では本年度新たにエマメクチン及びクロラントラニリプロールに設定されたが、まだ十分とは言えない状況である。EU での農薬に対する規制・審査が年々厳しくなるなかで、国際基準である Codex 基準の設定、その EU での承認などの対応策も同時に進めるべきと思われる。

インポートトレランス申請など輸出環境の整備を進めるが、その達成には薬剤によって技術的、経済的に限界がある。現状の薬剤で、その特性を生かした適正な使用方法をより追求・検証して輸出向け茶葉の生産をする必要もあると思われる。

茶における各国の残留農薬基準値

2024年12月28日

分野	商品名	一般名	Common Name	MOA	会社名	残留基準値 (mg/kg)													
						日本	USA	EU	Codex	台湾	中国	香港	韓国	シンガポール (Codex)	カナダ	オーストラリア	ロシア (Codex)	ベトナム	
殺菌	スターナ水和剤	オキシリニック酸	Oxolinic acid	A4-31	住友化学(株)	20		0.01	—			不検出	0.01		0.1				
	ベンレート水和剤	ベノミル	Benomyl	B1 -1	住友化学(株)	10		0.1*	—	※		5	0.01		0.1				
	トップジンM水和剤	チオファネートメチル	Thiophanate-methyl	B1-1	日本曹達(株)	10	o.c.	0.1*	—	※		5	2		0.1	0.1			
	バウミル	ジエトフェンカルブ	Diethofencarb	B2-10	住友化学(株)	5	o.c.	0.05*	—			[☆]	0.01		0.1				
	ナリアWDG の一剤	ボスカリド	Boscalid	C2-7	BASFジャパン(株)	60	70**	40	40	10		[☆]	0.01	40	0.1	40			
	アミスター20フロアブル	アゾキシストロビン	Azoxystrobin	C3-11	シンジェンタジャパン(株)	10	20**	0.05*	—	5		10	1	10	20	0.1			
	ストロビーフロアブル	クレソキシムメチル	Kresoxim-methyl	C3-11	BASFジャパン(株)	15	o.c.	0.05*	—	10		20	1.5		0.1	15			
	フリントフロアブル25	トリフロキシストロビン	Trifloxystrobin	C3-11	バイエルクロップサイエンス(株)	5	5**	0.05*	—	1		[☆]	15		0.1	0.05			
	ナリアWDGの一剤	ピラクロストロビン	Pyraclostrobin	C3-11	BASFジャパン(株)	25	o.c.	0.1*	6	5	10	[☆]	3	25	0.1	6			
	ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリベンカルブ	Pyribencarb	C3-11	クミアイ化学工業(株)	40		0.01	—	20		[☆]	0.01		0.1				
	スクレアフロアブル	マンデストロビン	Mandestrobin	C3-11	住友化学(株)	40	o.c.	0.05*	—			[☆]	0.01		0.1	0.05			
	ムケツフロアブル	メチルテトラプロール	Metyltetraprole	C3-11A	住友化学(株)	50		0.01	—			[☆]	0.01		0.1				
	フロンサイドSC	フルアジナム	Fluazinam	C5-29	石原産業(株)	6	6**	0.1*	—	5		5	7		6	0.01			
	カスミン	カスガマイシン	Kasugamycin	D3-24	北興化学工業(株)	3	o.c.	0.01	—	0.04		0.04	0.01		0.1				
	ロブラール水和剤	イプロジオン	Iprodione	E3-2	エフエムシー・ケミカルズ(株)	20	o.c.	0.05*	—	0.05*		[☆]	0.01		0.07	0.1			
	マネーヅ水和剤	イミベンコナゾール	Imibenconazole	G1-3	Meiji Seika ファルマ(株)	15		0.01	—	2		[☆]	0.2		0.1				
	スコア顆粒水和剤	ジフェノコナゾール	Difenoconazole	G1-3	シンジェンタジャパン(株)	15	15**	0.05*	20	5	10	10	2	15	30	0.05*			
	サンリット水和剤	シメコナゾール	Simeconazole	G1-3	三井化学アグロ(株)	10		0.01	—			[☆]	0.01		0.1				
	サルバトーレME	テトラコナゾール	Tetraconazole	G1-3	アリスタ	30	o.c.	0.05*	—	8		[☆]	0.01		0.1	0.02			
	オンリーワンフロアブル	テブコナゾール	Tebuconazole	G1-3	バイエルクロップサイエンス(株)	80	o.c.	0.05*	—	10		25	5	50	0.1	0.05			
	トリフミン水和剤	トリフルミゾール	Triflumizole	G1-3	日本曹達(株)	15	o.c.	0.1*	—	5		[☆]	3		0.1				
	インダーフロアブル	フェンブコナゾール	Fenbuconazole	G1-3	ダウ・ケミカル日本(株)	30	30**	0.05*	30	5		10	0.01	10	0.1	0.05*			
	チルト乳剤	プロピコナゾール	Propiconazole	G1-3	シンジェンタジャパン(株)	0.1	4**	0.05*	—	0.05*		[☆]	0.01	0.1	4	0.05			
	ラリー水和剤	ミクロブタニル	Myclobutanil	G1-3	ダウ・ケミカル日本(株)	20	o.c.	0.05*	—	20		[☆]	0.01	20	0.1	0.05			
	登録無し	トリデモルフ	Tridemorph	G2-5	バイエルクロップサイエンス(株)	20		0.05*	—	20		[☆]	0.01		0.1	0.05			
	ダコニール1000	クロロタロニル	Chlorothalonil	M 05	SDS バイオテック	10	o.c.	0.05*	—	2	10	10	0.01		0.1				
	ベルコートフロアブル	イミノクタジン	Iminoctadine	M 07	日本曹達(株)	10		0.01	—	1		[☆]	1		0.1				
	スパットサイド水和剤	フルオルイミド	Fluoroimide	M 11	日本農薬(株)	35		0.01	—			[☆]	0.01		0.1				
テブロスフロアブル	テブフロキン	Tebuflquin	U 16	Meiji Seika ファルマ(株)	15		0.01	—			[☆]	0.01		0.1					
ミギワ20フロアブル	イプフルフェノキン	Ipflufenquin		日本曹達(株)	90		0.01	—			[☆]	0.01		0.1					
除草	ダイロン微粒剤	ジウロン	Diuron	C2 7	保土谷アグロテック(株)	1	o.c.	0.05*	—	0.2		[☆]	0.01		0.1	0.05	0.02		
	マイゼットの一剤	ジクワット	Diquat	D 22		0.1		0.05*	—			[☆]	0.01		0.1	T0.5			
	グラモキソンS	パラコート	Paraquat	D 22	シンジェンタジャパン(株)	0.3	o.c.	0.05*	0.2	0.2	0.2	0.2	0.01	0.2	0.1		0.2	0.2	
	サンダーボルト007	ピラフルフェンエチル	Pyraflufen-ethyl	E 11	日本農薬(株)	0.01	o.c.	0.1*	—			[☆]	0.01		0.1				
	ラウンドアップ	グリホサート	Glyphosate	G 9		1	1	2**	—	0.1	1	1	0.8*		0.1	T20			
	バスタ液剤	グルホシネート	Glufosinate	H 10	BASFジャパン(株)	0.3	o.c.	0.1*	—		0.5*	[☆]	0.05		0.5	0.05*			
	トレファノサイド乳剤	トリフルラリン	Trifluralin	K1 3	日産化学工業(株)	0.05	0.05**	0.05*	—	0.05		[☆]	0.01		0.1	0.05*			
殺虫	オリオン水和剤40	アラニカルブ	Alanycarb	1 A	OATアグリオ(株)	5		0.01	—			[☆]	0.01		0.1				
	ランネット45DF	メソミル	Methomyl	1 A	宇都宮化成工業(株)	20	o.c.	0.05*	—	1	0.2	3	0.01	0.05*	0.01	0.05			
	失効	エンドスルファン	Endosulfan	2 A		30	expired	30**	10		10	20	10*	30*	0.1	10	30	10	
	アーデント水和剤	アクリナトリン	Acrinathrin	3 A	CBC(株)	10		0.05*	—	2		[☆]	0.01		0.1				
	トレボン乳剤	エトフェンプロックス	Etofenprox	3 A	三井化学アグロ(株)	10	5	0.05*	—		50	[☆]	10	10	0.1	0.05			
	サイハロン水和剤	シハロトリン	Cyhalothrin - Lambda	3 A	シンジェンタジャパン(株)	15	o.c.	0.01*	—	2	15	[☆]	2	15	2	1			
	バイスロイド乳剤	シフルトリン	Cyfluthrin - Beta	3 A	バイエルクロップサイエンス(株)	30	o.c.	0.05*	—	5	1	[☆]	0.01		0.1	0.05			
	アグロスリン水和剤	シベルメトリン	Cypermethrin	3 A	住友化学(株)	15	15 **	0.5**	15	2	20	20	15*	15	0.1	0.5	20	15	
	フォース粒剤	テフルトリン	Tefluthrin	3 A	シンジェンタジャパン(株)	0.2	o.c.	0.05*	—			[☆]	0.01		0.1				
		デルタメトリン	Deltamethrin	3 A		5	0.05	5**	5	5	10	10	5*	10*	7	5	5	5	
	スカウトフロアブル	トラロメトリン	Tralomethrin	3 A	バイエルクロップサイエンス(株)	5		0.01	—			[☆]	5*		0.1			5	
	テルスター水和剤	ビフェントリン	Bifenthrin	3 A	エフエムシー・ケミカルズ(株)	30	30**	30**	30	2	5	30	30*	30	30	5		30	
	除虫菊乳剤	ピレトリン	Pyrethrins	3 A	大日本除虫菊(株)	3	o.c.	0.5**	—			[☆]	0.01		0.1	0.2			
	ロディー乳剤	フェンプロバトリン	Fenpropathrin	3 A	住友化学(株)	40	2**	2**	3	10	5	2	3*	3	2	2	2	3	

茶における各国の残留農薬基準値

2024年12月28日

分野	商品名	一般名	Common Name	MOA	会社名	残留基準値 (mg/kg)												
						日本	USA	EU	Codex	台湾	中国	香港	韓国	シンガポール (Codex)	カナダ	オーストラリア	ロシア (Codex)	ベトナム
殺虫	マブリック水和剤20	フルバリネート	Fluvalinate - tau	3 A	日本農薬(株)	10	o.c.	0.05*	—	5		[☆]	0.01		0.1	0.02		
	アディオン乳剤	ペルメトリン (PAP)	Permethrin	3 A	住友化学(株)	20	20**	0.1*	20	10	20	20	20*	20	0.1	0.1	20	20
	MR. ジョーカー水和剤	シラフルオフエン	Silafluofen	3 A	バイエルクロップサイエンス(株)	80		0.01	—			[☆]	0.01		0.1			
	モスピランSL液剤	アセタミプリド	Acetamiprid	4 A	日本曹達(株)	30	50**	0.05*	—	2	10	30	7	30	0.1	0.1		
	アドマイヤー顆粒水和剤	イミダクロプリド	Imidacloprid	4 A	バイエルクロップサイエンス(株)	10	o.c.	0.05*	50	10	0.5	[☆]	30*	50	50	50	50	
	ダントツ水溶剤	クロチアニジン	Clothianidin	4 A	住友化学(株)	50	70**	0.7**	0.7	5	10	0.7	0.6*	0.7	70	T0.7	0.7	0.7
	スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン	Dinotefuran	4 A	三井化学アグロ(株)	25	50**	0.01	—	10	20	25	0.01		0.1	0.02		
	バリアード顆粒水和剤	チアクロプリド	Thiacloprid	4 A	バイエルクロップサイエンス(株)	25	o.c.	10**	—	10	10	30	10*	10	0.1	10		
	アクトラ顆粒水溶剤	チアメキサム	Thiamethoxam	4 A	シンジェンタジャパン(株)	20	20**	20**	20	1	10	20	2	20	0.02	20	20	20
	ベストガード水溶剤	ニテンピラム	Nitenpyram	4 A	住友化学(株)	10		0.01	—		1	[☆]	0.01		0.1			
		臭素	Bromide	8 A		50		70**	—			[☆]	0.01		0.1	15		
	カーラフロアブル	クロフェンテジン	Clofentezine	10 A	アダマ・ジャパン	20	o.c.	0.05*	—	0.05*		[☆]	0.01		0.1	0.05*		
	ニッソラン水和剤	ヘキシチアゾクス	Hexythiazox	10 A	日本曹達(株)	15	15**	15	15	0.05*	15	[☆]	20	15	15	4		15
	ガンバ水和剤	ジアフェンチウロン	Diafenthion	12 A	シンジェンタジャパン(株)	20	不検出	0.01	—	5	5	[☆]	0.01		0.1	0.01		
	ディアナSC	スピネトラム	Spinetoram	5	住友化学(株)	70	70**	0.1*	70	3		[☆]	0.05		0.1	70		
	スピノエースフロアブル	スピノサド	Spinosad	5	ダウ・ケミカル日本(株)	9	2**	0.1*	—	1		[☆]	0.1		0.1	0.01		
	アグリメック	アバメクチン	Abamectin	6	シンジェンタジャパン(株)	1	1**	0.05*	—	0.1		[☆]	0.05		0.2	0.01		
	アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩	Emamectin benzoate	6	シンジェンタジャパン(株)	0.5	0.5**	0.01*	0.1	0.05	0.5	[☆]	0.03	0.1	0.1	0.02*		
	アニキ乳剤	レピメクチン	Lepimectin	6	三井化学アグロ(株)	0.3		0.01	—			[☆]	0.01		0.1			
	ミルベノック乳剤	ミルベメクチン	Milbemectin	6	三井化学アグロ(株)	1		0.1*	—	2		[☆]	0.5		0.1			
	コテツフロアブル	クロルフェナピル	Chlorfenapyr	13	BASFジャパン(株)	40	70**	50**	60	2	20	[☆]	3	60	70	60		
	バダン水溶剤	カルタップ	Cartap	14	住友化学(株)	30		0.1*	—	1	20	[☆]	0.01		0.1			
	エビセクト水和剤	チオシクラム	Thiocyclam	14	三井化学アグロ(株)	30		0.1※1	—			[☆]	0.01		0.1			
	アタブロン乳剤	クロルフルアズロン	Chlorfluazuron	15	石原産業(株)	10		0.01	—	5		[☆]	10		0.1			
	デミリン水和剤	ジフルベンズロン	Diflubenzuron	15	アグロ カネショウ(株)	20	o.c.	0.05*	—	10	20	20	0.01		0.1	0.1		
	ノーモルト乳剤	テフルベンズロン	Teflubenzuron	15	日本農薬(株)	20	o.c.	0.05*	—	5		20	0.01	20	0.1			
	カスケード乳剤	フルフェノクスロン	Flufenoxuron	15	BASFジャパン(株)	20	o.c.	15**	20	15	20	15	10	20	0.1			20
	マッチ乳剤	ルフエヌロン	Lufenuron	15	シンジェンタジャパン(株)	10	0.1	0.05*	—	5		[☆]	15	10	0.1	0.02		
	アブロード水和剤	ブプロフェジン	Buprofezin	16	日本農薬(株)	30	20**	0.05*	30 (green)	1	10	10	15	30	30	0.1		30
	マトリックフロアブル	クロマフェノジド	Chromafenozide	18	日本化薬(株)	20		0.05*	—			[☆]	3		0.1			
	ファルコンフロアブル	メキシフェノジド	Methoxyfenozide	18	ダウ・ケミカル日本(株)	70	20**	80	80	10		20	0.01		0.1	0.03		
	ロムダンフロアブル	テブフェノジド	Tebufenozide	18	日本曹達(株)	25	o.c.	0.05*	—	0.05*		25	0.01	25	0.1	0.05		
	ダニエモンフロアブル	スピロジクロフェン	Spirodiclofen	23	バイエルクロップサイエンス(株)	20	o.c.	0.05*	—	5		[☆]	5		0.1			
	ダニゲッターフロアブル	スピロメシフェン	Spiromesifen	23	バイエルクロップサイエンス(株)	30	40	50**	70	30		30	30	70	60	50	50	
	サムコルフロアブル10	クロラントラニリプロール	Chlorantraniliprole	28	エフエムシー・ケミカルズ(株)	50	50	0.05*	80	2		[☆]	50	50	0.1	T0.1		
	エクシレルSE	シアントラニリプロール	Cyantraniliprole	28	エフエムシー・ケミカルズ(株)	30	30**	0.05*	—	1.5		[☆]	0.01		60	0.05	0.03	
	テッパン液剤	シクランリプロール	Cyclaniliprole	28	石原産業(株)	50	50**	0.05*	50	15		[☆]	0.01	50	50	50		
	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド	Flubendiamide	28	日本農薬(株)	50	50**	50**	50	1		50	50*	50	50	0.02		50
	ヨーバルフロアブル	テトラニプロール	Tetraniliprole	28	バイエルクロップサイエンス(株)	80	80	0.01	—			[☆]	0.01	10	0.1	0.02		
	ウララDF	フロニカミド	Fonicamid	29	石原産業(株)	40	40	0.1*	—	5		[☆]	10	40	40	0.2		
	グレーシア乳剤	フルキサメタミド	Fluxametamide	30	日産化学株式会社	6	5**	0.01	—			[☆]	1		0.1			
	オルトラン水和剤	アセフェート	Acephate	1 B	住友化学(株)	0.2	o.c.	0.05*	—	0.05*	0.05	0.1	0.01	0.2	0.1			
	ダーズバン乳剤40	クロルピリホス	Chlorpyrifos	1 B	ダウ・ケミカル日本(株)	10	o.c.	0.01*	—	2	2	2	2*	2	0.1	2	2	2
		クロルピリホスメチル	Chlorpyrifos-methyl	1 B	ダウ・ケミカル日本(株)	0.1	o.c.	0.01*	—	0.05*		[☆]	0.01	0.1*	0.1	0.1		
	ショットガン	ダイアジノン	Diazinon	1 B	日本化薬(株)	0.1	o.c.	0.05*	—	2		0.1	0.01		0.1			
	スミチオン乳剤	フェントロチオン	Fenitrothion	1 B	住友化学(株)	0.1	o.c.	0.05*	—	0.5	0.5	0.5	0.2	0.5*	0.1	0.5	0.5	

茶における各国の残留農薬基準値

2024年12月28日

分野	商品名	一般名	Common Name	MOA	会社名	残留基準値 (mg/kg)												
						日本	USA	EU	Codex	台湾	中国	香港	韓国	シンガポール (Codex)	カナダ	オーストラリア	ロシア (Codex)	ベトナム
殺虫	カルホス乳剤	イソキサチオン	Isoxathion	1 B	保土谷UPL(株)	0.5		0.01	—	5		[☆]	0.01		0.1			
	スブラサイド乳剤40	メチダチオン	Methidathion	1 B	全国農業協同組合連合会	1	Expire	0.1*	0.5	0.5	0.05	0.5	0.01	0.5	0.1	0.02	0.5	0.5
	エルサン乳剤	フェントエート	Phenthoate	1 B	日産化学(株)	0.02		0.01	—	0.05		[☆]	0.01		0.1			
	アクテリック乳剤	ピリミホスメチル	Pirimiphos-methyl	1 B	シンジェンタジャパン(株)	10	o.c.	0.05*	—	0.05*		10	0.01	10	0.1	0.02	0.5	
	エンセダン乳剤	プロフェノホス	Profenofos	1 B	シンジェンタジャパン(株)	0.2	o.c.	0.05*	—	0.5	0.5	0.5	0.5*	0.5	0.1	0.05*	0.5	0.5
	トクチオン乳剤	プロチオホス	Prothiofos	1 B	アリスタ ライフサイエンス(株)	5		0.01	—			[☆]	0.01	0.05	0.1	不検出		
	バロックフロアブル	エトキサゾール	Etoazole	10 B	住友化学(株)	15	15**	15**	15	5	15	15	15*	15	15	15		15
	オマイト乳剤	プロパルギット	Propargite	12 C	日本農薬(株) Chemutura	5	10	10**	5	2		5	4 *	5	0.1		5	5
	テデオン乳剤	テトラジホン	Tetradifon	12 D	アグロ カネショウ(株)	0.7		0.05*	—			[☆]	0.01		0.1			
	キラップフロアブル	エチプロール	Ethiprole	2 B	バイエルクロップサイエンス(株)	10	30**	0.01	—	10		[☆]	0.01		30	0.02		
	カネマイトフロアブル	アセキノシル	Acequinocyl	20 B	アグロ カネショウ(株)	40	40**	0.05*	—			[☆]	3		0.1	0.02		
	マイトコーネフロアブル	ビフェナゼート	Bifenazate	20 D	日産化学工業(株)	2	o.c.	0.1*	—	2		[☆]	3		0.1	0.2		
	Import Tolerance	フェナザキン	Fenazaquin	21 A		10	9**	9**	—	20	15	[☆]	9*	10	0.1			
	ダニトロンフロアブル	フェンピロキシメート	Fenpyroximate	21 A	日本農薬(株)	40	20	8**	8	5		[☆]	10	8	44	0.1		
	サンマイトフロアブル	ピリダベン	Pyridaben	21 A	日産化学工業(株)	10	o.c.	0.05*	—	5	5	[☆]	0.01	10	0.1			
	マイトクリーン	ピリミジフェン	Pyrimidifen	21 A	三井化学アグロ(株)	3		0.01	—	1		[☆]	0.01		0.1			
	ピラニカEW	テブフェンピラド	Tebufenpyrad	21 A	日本農薬(株)	2		0.05*	—	2		[☆]	0.01	2	0.1	0.1		
	ハチハチ乳剤	トルフェンピラド	Tolfenpyrad	21 A	日本農薬(株)	30	30	0.01	30 (green)	10	50	[☆]	30*	30	30			30
	トルネードエース	インドキサカルブ	Indoxacarb	22 A	エフエムシー・ケミカルズ(株)			5**	5	0.01*	5			5		5		
	スターマイトフロアブル	シエノピラフェン	Cyenopyrafen	25 A	日産化学工業(株)	60		0.01	—	20		[☆]	0.5		0.1			
	ダニサラバフロアブル	シフルメトフェン	Cyflumetofen	25 A	OATアグリオ(株)	40	40	0.05*	—	5		[☆]	2		0.1			
	ダニコングフロアブル	ピフルブミド	Pyflubumide	25 B	日本農薬(株)	50	80**	0.01	—			[☆]	1.5		0.1			
	ブルーートMC	ピリプロキシフェン	Pyriproxyfen	7C	住友化学(株)	15	15	15**	—	5		15	0.01	15	15	0.1		
	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン	Pyrifluquinazon	9 B	日本農薬(株)	20	20**	0.01	—	15	15	[☆]	0.01		20			
	ファインセーブフロアブル	フロメトキン	Flometoquin	UN	Meiji Seika ファルマ(株)	5		0.01	—			[☆]	0.01		0.1			
	ダニオーテ乳剤	アシノナピル	Acynonapyr	UN	日本曹達株式会社	30		0.01	—			[☆]	0.01		0.1			
	ネマモール乳剤		DCIP			0.2		0.01	—			[☆]	0.01		0.1			
						28/12/2022 17/11/2021 27/11/2023 28/12/2024	** :インポート レランス o.c.:other crops 28/12/2022 27/11/2023 28/12/2024	* : 定量限 界値 ** : インポー トトレランス 28/12/2022 27/11/2023 28/12/2024	53rd Session (July 2022) 28/12/2024	11/12/2021 26/12/2022 0.05 * indicates LOQ 28/12/2024	24/8/2021 the latest data 26/12/2022	Last revision date: 29/5/2017 16/11/2021 26/12/2022	* provisional 01/01/2019 5/2/2020 16/10/2020 19/11/2021 28/12/2022	* : シンガポール 独自に設定 独自に設定 version in force from 1/2/2019 1/5/2020 the latest data 26/12/2022	Date Modified: 12/11/2021 25/12/2022	7/4/2020 18/10/2021 28/12/2024	11/15/2019	